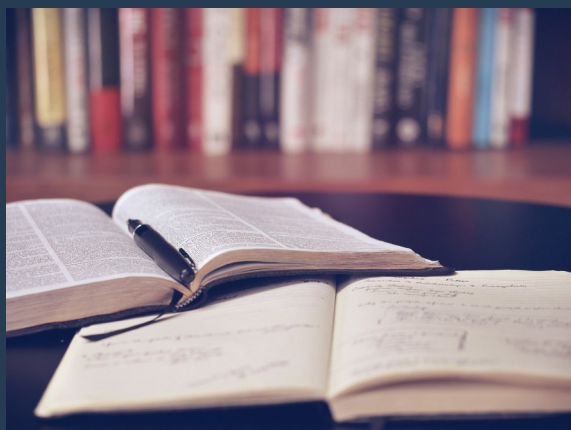


リーディングセミナー

読書を通して得られるのは、知識だけではありません



参加費
無料

リーディングセミナーでは、

- テキストの構成やポイントを考えながら読む力
- 自分が面白いと感じる感性
- 著者の主張の妥当性を考えながら読む力
- 他人の意見を聞き、それを尊重する力
- 他人のよさを理解しながら、グループワークをする力を培います

リーディングセミナーでは、近年、大学界限において話題の、高校生向けに書かれた（または高校生にも考えて欲しい）、新書や文庫を1冊、取り上げ、参加者で読書体験を共有します。

参加者間で、重要だと思った点、疑問に感じた点、面白いと思った点などについて意見交換したうえで、本書の紹介文を作成します。これらを通して、テキスト、そしてその学問的背景についての理解を深めます。ひとりの読書もいいですが、読書体験を共有する楽しさを、ぜひ、感じ取って下さい。参加に当たり、事前にテキストを読み、簡単な課題に答えてもらいます。

大学の授業（特に、ゼミナール形式で開かれるもの）では、このように1冊のテキストを読み合い、議論する（輪読する）ことがあります。大学らしい学びをいち早く体験してみませんか。

◆ 日時（2024年3月開催）

<第7回> 2024年3月25日(月) 14:00-17:00

伊藤亜聖『デジタル化する新興国：先進国を超えるか、監視社会の到来か』（中公新書、2020）

<第8回> 2024年3月27日(水) 14:00-17:00

中川毅『人類と気候の10万年史』（講談社ブルーバックス、2017年）

<第9回> 2024年3月29日(金) 14:00-17:00

川嶋みどり『看護の力』（岩波新書、2012年）

◆ 開催方法

ハイブリッド開催（対面とオンライン）

● 対面：金沢大学角間キャンパス（教室は、KUGS 高大接続プログラムポータルサイトにて、お知らせいたします）

● オンライン：事前登録者に、Zoom URL をお伝えいたします

◆ 対象

高校在籍者～既卒2年者（高校1年生も歓迎いたします）

◆ 申込方法

KUGS 高大接続プログラムポータルサイトに登録後、マイページの「カレンダー」からお申し込み下さい。

<https://kugspro.adm.kanazawa-u.ac.jp>

締め切り：開催日の3日前まで

◆ 主催・お問い合わせ先

金沢大学高大接続コア・センター
kugspro@adm.kanazawa-u.ac.jp

過去のリーディングセミナーの様子は、こちらからご覧いただけます。



2024年3月下旬

伊藤亜聖『デジタル化する新興国：先進国を超えるか、監視社会の到来か』（中公新書、2020）

デジタル技術の進化は、新興国・途上国の姿を劇的に変えつつある。中国、インド、東南アジアやアフリカ諸国は、今や最先端技術の「実験場」と化し、決済サービスや WeChat などのスーパーアプリでは先進国を凌駕する。一方、雇用の悪化や、中国が輸出する監視システムによる国家の取り締まり強化など、負の側面も懸念される。技術が増幅する新興国の「可能性とリスク」は世界に何をもたらすか。日本がとるべき戦略とは。

中川毅『人類と気候の10万年史』（講談社ブルーバックス、2017）

福井県・水月湖に堆積する「年縞」。何万年も前の出来事を年輪のように1年刻みで記録した地層で、現在、年代測定の世界標準となっている。その年縞が明らかにしたのは、現代の温暖化を遥かにしのぐ「激変する気候」だった。人類は誕生から20万年、そのほとんどを現代とはまるで似ていない、気候激変の時代を生き延びてきたのだった。過去の詳細な記録から気候変動のメカニズムに迫り、人類史のスケールで現代を見つめ直します。

川嶋みどり『看護の力』（岩波新書、2012）

人間誰もが持つ自然に治る力を引き出すこと。著者はこれこそが看護の営みの原点という。美味しく食べて、気持ちよく清潔に過ごし、ぐっすりと眠れるように……人間らしく生きる普通の暮らしを整えるケアとは何か。胃瘻や床ずれ対応のヒントに「下の世話」や代用入浴の心得など。現役看護師として60年、その心と技の真髄。

2024年8月

Jose, 川島良彰・池本幸生・山下加夏『コーヒーで読み解くSDGs』（ポプラ新書、2023）

SDGsは、環境、経済、社会に関わる17の目標を掲げていますが、それらの目標は、コーヒー業界がSDGs以前から取り組んできた課題の縮図でもあります。大学教授、国際NGOの元職員、コーヒーハンターという3人の著者がコーヒーを通してSDGsを紐解き、解説していくことで、誰もがコーヒーを通じてSDGsに貢献できることに気付く。コーヒーを通してSDGsの理解を深められるこれまでにない一冊。

和泉悠『悪口ってなんだろう』（ちくまプリマー新書、2023）

悪口とは何か？悪口と軽口や冗談は何が違うのだろうか？まっとうな批判とは何が違うのだろうか？どうして「タコ」とか「ザコ」とか他の生き物を指すことばで悪口を言うのだろうか？どうして悪口を言うのは楽しいのだろうか？悪口はなくならないのだろうか？こうした問いに答え、悪口を通じて人間の本質に迫る。

2025年3月下旬

岡西政典『生物を分けると世界が分かる』（講談社ブルーバックス、2022）

地球上で年間1万種もの生物が絶滅しているという。その多くは、人類に認識すらされる前に姿を消していつている。つまり私たちは、まだこの地球のことをこれっぽっちも分かっていない。それどころか、「分かっていないことすらも分かっていない」のである。だが、分類学を学ぶことで、この地球の見え方は確実に変わる。奇妙な海洋生物・クモヒトデに魅せられ、分類学に取りつかれた若き分類学者が描き出す、新しい分類学の世界。

小野寺拓也・田野大輔『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか？』（岩波ブックレット、2023）

「ナチスは良いこともした」という言説は、国内外で定期的に議論的になり続けている。アウトバーンを建設した、失業率を低下させた、福祉政策を行った――功績とされがちな事象をとりあげ、ナチズム研究の蓄積をもとに事実性や文脈を検証。歴史修正主義が影響力を持つなか、多角的な視点で歴史を考察することの大切さを訴える。

※いずれも2024年1月現在の予定です。詳細は、KUGSポータルサイトより、ご確認下さい。

※上記の紹介文は、出版社が提供しているものを掲載しています。

◆参加者の声

「少人数でディスカッションすると意外とリラックスして話すことが出来てよかったです」

「自分一人では思い浮かばなかった発想、疑問、論点に触れることができ、とてもよい体験になりました」

「普段、本を読まないのですが、今回一冊の本に向き合い、話し合いによって多様な考え方を知ることができて、とても楽しかった」

